

# 詩、踊る

CULTURE CITY OF EAST ASIA 2020 KITAKYUSHU "shi odoru" 通信 vol.1

「詩、踊る」と聞いて、ちょっと不思議な気がしないだろうか？  
 「言葉を研ぎ澄ます詩」と「言葉によらない表現を追求するダンス」は、ちょっと合わないのでは？  
 しかしじつは、詩とダンスにはもともと深い関係があるのだ。  
 北九州が誇る三人の詩人と、世界的に活躍する三人の振付家が出会い「詩、踊る」について、紹介していこう！

文：乗越たかお（作家・ヤサぐれ舞踊評論家）Norikoshi Takao

## 北九州の地で、詩とダンスが出会い。 言葉と身体が、魂で繋がる3つの作品を解説！

「詩は言葉によるダンスであり、ダンスは身体による詩である」

これは現代詩人・野村喜和夫の言葉だ。優れた詩はダンスのように生き生きとしたエネルギーに満ちているし、優れたダンスは詩のように豊かなイメージや鋭い視点を観客に伝えることができる。「言葉による芸術」と「言葉によらない芸術」は相反するものではなく、足りない部分を補い合い、互いの表現を何倍にも高めあってくれるものなのだ。

実は今回、北九州が誇る詩人に挑む三人の振付家は「舞踏」という共通点がある。北九州芸術劇場はこれまで世界的な舞踏カンパニー山海塾の世界初演作を上演するなどの実績があるので、観た人も多いだろう。

じつは舞踏の創始者である土方巽も大野一雄も、様々なイメージや動きを作るため、強烈で多彩な言葉を紡ぎだす人だった。それは現代の舞踏へ受け継がれており、今回の三人の身体にも言葉の重要さは染み込んでいるのだ。

まず大駱駝艦で活躍する田村一行は、高橋睦郎の連載詩『深きより 二十七の聲』に挑む。公演タイトルも「深きより」。高橋は現代詩と、短歌や俳句という伝統的な詩は決して隔絶されたものではなく、連綿と受け継がれ繋がっていると考え、自身の作品でも実践してきた。この詩の冒頭にも「hieda no are」つまり『古事記』を伝えた稗田阿礼の名が記されている。そして日本の国造り神話で、生まれたあと棄てられ海に流されたヒルコに自らを重ねるくだりがある。大駱駝艦はグロテスクさをも内包する根源的な生命力あふれる踊りが魅力のカンパニーなので、この邂逅は骨太な作品を生むに違いない。

鈴木ユキオ「HÔKA」は、平出隆の詩『雷滴その放下』。平出は、自分の詩集のデザインを自ら手がけて世界的に評価を受けたりベストセラー小説を書いたりと、多様な才能で様々な領域を横断してきた。本作は、嵐の前の徐々に高まっていく不穏な緊張を通して、いましも雷撃に打たれそうな情景を描き出していく。鈴木ユキオは室伏鴻に舞踏を学び、コンテンポラリーダンスの登竜門トヨタコレオグラフィーアワードを受賞。身体の中にいくつもの相反するベクトルの力を内包し、驚異的なテンションで踊るダンサーである。平出の詩の中にある「招雷針を避雷針にかさね、全身で道程を浄めていけ」という一節は、まさに鈴木と重なるようだ。

今回のプロジェクト「詩、踊る」は～東アジア文化都市2020北九州～の文学事業の一環として行われる。アジア諸国との文化の架け橋に、言葉と身体表現の両面で訴えていく。文学性と身体性、そして歴史性と現代性を兼ね備えたプロジェクトであり、その成果を大いに期待したい。

●  
次回より振付家お一人ずつに  
作品について  
語っていただきます！

11月7日(土)

15:00開演

北九州芸術劇場 中劇場

[料金]

一般 ¥4,000

ユース ¥2,500

(24歳以下・要身分証提示)

高校生[的]チケット ¥1,500

(劇場窓口にて前売限定数のみ・要学生証提示)

\*全席指定 \*未就学児入場不可

浅井信好的作品タイトルは、宗左近の長編詩と同じ「炎える母」。宗は本作で権威ある藤村記念歴程賞を受賞している。第二次世界大戦中の東京大空襲で母と共に被災し、目の前で母親が炎に焼かれる。主人公(宗)は燃えている母親をあとにして、必死に走って生きながらえる。しかし心に焼き付いた光景、母を見捨てた罪悪感に、長い時を経て向かい合う悲絶な詩だ。浅井は舞踏手として山海塾にも所属していたが、出身はストリートダンスというハイブリッドな世代である。美術や照明・衣裳など様々な角度から作品にアプローチしていく手腕は国内外で高く評価されている。この長編詩にどう挑むのか、実際に楽しみである。

### 「深きより」

詩  
高橋睦郎振付・演出、美術・出演  
田村一行  
(大駱駝艦)

演出  
大駱駝艦  
(塩谷智司、小田直哉)  
坂詰健太、阿蘇尊

### 「HÔKA」

詩  
平出 隆  
『雷滴 その放下』振付・出演  
鈴木ユキオ演出  
大駱駝艦

### 「炎える母」

詩  
宗 左近  
『炎える母』振付・出演  
浅井信好

演出  
井田亜彩実